



みんなで愛し、みんなで支える井笠鉄道記念館

小さな車両がまるで「マッチ箱」のようだと親しまれていた井笠鉄道は岡山で最初に運転された私鉄として、およそ60年間地域の足となり生活を支え、観光や産業の発展にも大きく貢献しました。利用者があまりに多かったため、汽車が坂を登らず、車掌や乗客が協力しみんなで坂を押して上がったというお話も残っています。

そんな井笠鉄道記念館は昭和46年(1971)に廃線されてから、井笠鉄道株式会社によって設立され、平成14年(2002)に「井笠鉄道の軽便鉄道関連遺産」として推進産業遺産に認定されました。現在は県内外のボランティア協力のもと運営されています。

◆ 施設のおすすめ

屋外展示として1号機関車、客車(ホハ1)、貨車(ホワフ1)と実際に使われていた転車台が展示され、実際に乗り込むことができ、大変喜ばれています。

1号機関車はドイツから輸入され、開業当初から昭和30年まで活躍していました。ボランティアの手により、整備・再塗装が行われ当時の装いを取り戻しています。

館内には当時使われていた事故防止のタブレットという機械や駅間をつなぐ専用の電話、制帽、ランプなど様々な道具を観察することができ、井笠鉄道、国鉄、新幹線のレールを比較することもできます。

◆ 子どもたちへのメッセージ

昔こんな機関車や客車が、たくさんの人の生活を支え活躍していたこと、今は無くなってしまったけれど同じような駅が他にもあったことなど井笠鉄道の歴史を知ってほしいと思います。

機関車や当時の道具もたくさんあるので触れたり、乗ったり、体験してください。

毎年3月の第5日曜日にはいろいろな出し物のあるイベントも開催するのでぜひ来て下さい。



1号機関車(屋外展示)



客車内部のようす



駅間の連絡を取るための電話機



展示室(井笠鉄道ゆかりの品々を展示)



タブレット



1号機関車の機関室